



## 香川大学大学院 地域マネジメント研究科

事務室 香川大学教務課学務第二係(地域マネジメント研究科担当)

〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

tel.087-832-1813

URL <http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

**沿革**

大正12年(1923年) 官立高松高等商業学校を現校地に創立  
昭和19年(1944年) 高松高等商業学校を高松経済専門学校に改称  
昭和24年(1949年) 香川大学経済学部発足  
昭和56年(1981年) 香川大学法学院発足  
平成15年(2003年) 香川大学大学院地域マネジメント研究科設立認可  
平成16年(2004年) 連合法務研究科とともに大学院地域マネジメント研究科創設  
平成21年(2009年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定  
平成26年(2014年) 創立10周年記念行事開催  
平成26年(2014年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定  
平成31年(2019年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定

2022年4月1日発行

地域新時代を拓くプロフェッショナルになる

# 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 2022年度要覧

# Business School!

国立大学法人香川大学大学院 地域マネジメント研究科



香川大学大学院地域マネジメント研究科は、  
わが国初の地域活性化に貢献する教育研究を目的とした  
経営系専門職大学院として開校し、19年目を迎えました。

「ビジネスと地域公共領域の融合で地域のリーダーを養成します。」



## ご挨拶

香川大学大学院  
地域マネジメント研究科長  
原 真志

日本の経済と社会を建て直すため、地域の役割が注目されており、国をあげて地方創生の取組みが行われています。また、各地にある国立大学は地域社会における中心的役割が求められる時代になっており、香川大学も大学全体として地域貢献を進めています。香川大学大学院地域マネジメント研究科は、中国四国地方で唯一のMBAが取得できる経営系専門職大学院として発足し、国立大学としては、一橋大学、神戸大学、九州大学に次いで全国で4番目に、2004年に開校したビジネススクールです。大学基準協会による経営系専門職大学院の認証を受けており、要求される研究教育水準を満たしているという評価結果をいただいている。地域活性化に貢献する教育研究に焦点をあてた初めてのビジネススクールであり、そのことが他に類を見ない特徴となっています。

今や日本全体が地方を元気にする取組みを重視し、大学が地域を重視する土壤が整って来ていますが、本研究科の創設当時は、「国際化の時代に、なぜ地域なのか」「地方都市にそんなニーズがあるのか」と問われ、こうした地域に焦点をあてた試みを理解していただくことは容易ではありませんでした。しかし、心ある方々の支援を得て開校することができ、今年で19年目を迎えています。地域マネジメント研究科には、早くから地域活性化のための教育研究に取り組み、切り開いてきたパイオニアとしての自負があり、理解していただけた方々とともに立ち上げの困難を耐え抜いた強さがあります。そして、学生と教員が共に培ってきた経験の蓄積は本研究科の大きな財産となっています。今、本研究科の試みは多くの方に共鳴していただき、500名を超える修了生を輩出し、それぞれの現場でご活躍いただいている。この後の10年、地域活性化への取組みをさらに大きく実らせ、発展させなくてはなりません。地域マネジメント研究科は、19年近くの期間に取り組んで来た経験とネットワークを最大限に活かして、さらに地域に貢献して参ります。

学生の多くは昼間に仕事をしながら熱心に学ぶ社会人です。最近は女性の割合が増えており、多様な視点で力を発揮しております。本研究科は、地域を元気にするという共通のミッションの下、民間企業だけでなく、自治体やNPOの方々も一緒に学ぶ場となっており、民間と公共をクロスした学習とネットワーク形成の貴重な場、組織の垣根を越えて本気で新規事業や地域を語り、深く交流できる「第二の青春」とも言える充実した生活ができる場となっています。

2年間のプログラムを修了すると、世界的に通用し、ビジネス界で重視される経営修士（専門職）、MBA（Master of Business Administration）の学位が授与されます。香川大学大学院地域マネジメント研究科で学び、地域のリーダーとして活躍していってください。

## 地域マネジメント研究科の概要

学位名称 経営修士（専門職）  
MBA (Master of Business Administration)

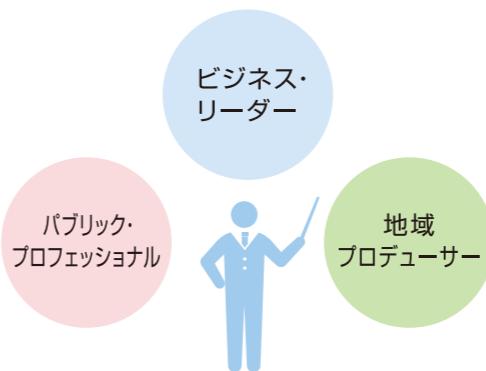
学生定員 入学定員 30名／収容定員 60名

授業時間 昼夜開講  
平日(月曜日～金曜日)の夜間の授業時間帯  
第1時限/18:20～19:50 第2時限/20:00～21:30  
また土曜日にも授業を行うとともに、夏季などの休業期間に  
集中講座を実施し、社会人に都合のよい時間割に配慮します。  
さらに、自習サポートシステムを整備し、勉強の便宜を図ります。

標準修業年限 2年

修了要件 40単位以上の取得

## 養成する人材像

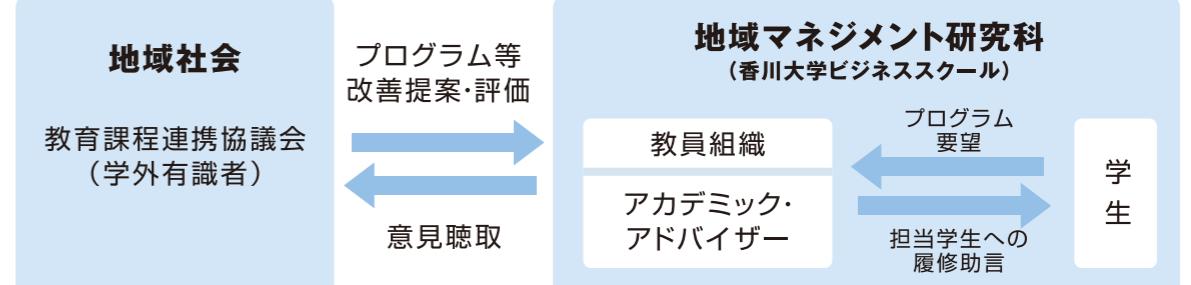


[ビジネス・リーダー]  
企業の創造的変革を先導し、グローバルな視野を持ちながら地域に貢献する。

[パブリック・プロフェッショナル]  
行政部門に新たな戦略と行動力をもたらす。

[地域プロデューサー]  
地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る。

## 学生と地域に開かれた組織



教育課程連携協議会では、地域社会の期待や要請を研究科内のカリキュラムに反映させるため、毎年、地元を代表する経済界・行政の有識者と本研究科教員との意見交換会を開いています。

## 本研究科の教育理念とアドミッション・ポリシー(学生受入方針)

わが国全体の活力を上げるために、各地域がグローバルな視野を持ちながら、地域の資源を活用して発展していくことが求められています。また、地方分権の一層の進展が期待される中、官民が連携し地域を支え、地域が自立していくことが求められてきています。このような社会的要請を踏まえ、本研究科は、地域活性化に貢献する教育研究を通して、高い倫理観とグローバルな視野のもと、マネジメントや地域政策に関する能力を養うことで、高い志を持って地域を支え、かつマネジメントすることのできるリーダーを養成することを教育理念とします。したがって、本研究科では以下のような地域のリーダーを目指す人の入学を求めます。

- ①企業の創造的変革を先導し、グローバルな視野を持ちながら地域に貢献する「ビジネス・リーダー」
- ②行政部門に新たな戦略と行動力をもたらす「パブリック・プロフェッショナル」
- ③地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る「地域プロデューサー」



## ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本研究科では、上記の教育理念に基づき、地域活性化に貢献する上で必要な基礎及び専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を企画・実行・発表する「総合力」を身につけ、国内外におけるマネジメントや地域政策の現場で活躍できる幅広い知識を備えた人材を育成します。本研究科を修了し、本学が送り出す経営修士(専門職)は、高い倫理観とグローバルな視野とともに、以下の能力を身につけている必要があります。

- ①専門知識・理解:社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決する能力
- ②研究能力・応用力:地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力及び地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力
- ③倫理観・社会的責任:高い倫理観及び社会的責任に関する自覚と理解を踏まえつつ、地域活性化に貢献するための課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行する能力
- ④グローバルマインド:地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるために必要とされるグローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力



## カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)

本研究科では、上記の5つの能力に対応して、「分析基礎科目」、「地域基礎科目」、「基礎科目」、「応用科目」、「プロジェクト科目」から構成される教育課程を編成・実施します。修了要件はこれらの科目40単位以上の修得およびプロジェクト研究の審査に合格することです。なお、入学時から修了時まで、学生一人ひとりの研究・教育上の相談相手となる教員を複数割り当て、支援を行うことで、学生の多様な問題意識や目的に対応した履修計画を適切にカスタマイズできる体制を構築しています。



## 取得できる学位

経営修士(専門職) MBA (Master of Business Administration)



### A 多彩な専任教員・講師

専任教員は、経営領域と、地域科学分野の優れた研究業績を有する研究者教員と、中央省庁・自治体や企業での豊富な経験を有する実務家教員からなります。非常勤講師には、県内外から産官学各界を代表する方々に就任しています。行政関係では、四国財務局長などの省庁の局長、香川県知事などの自治体トップ、経済関係では地域企業の経営者、全国企業の支店長など多彩な講師を迎え入れ、さらに地域とタイアップした講義などカリキュラムの充実に努めています。



### B 理論と実務の双方向教育

多彩な教員による実務的な科目群、理論的な科目群、そして集大成を図るプロジェクト研究などのカリキュラムについて、理論と実務の双方から教育を取り組みます。またビジネススクールの特性を活かし、ケース教材開発を積極的に推進し、それを活用した教育を行います。



### C きめ細やかな少人数教育

専任教員1人あたりの学生数は学年あたり約3人です。学生1人ひとりの問題意識に応じたきめ細やかな指導が可能です。また、専任教員によるアカデミック・アドバイザー制度を設け、学生1人ひとりの学習上の相談に応えます。



### D 社会人に便利な教育環境

討論が出来るスペースやPCを備えた24時間利用可能な本研究科専用ラウンジとPCルームを整備するほか、一部科目では、遠隔で講義が受講できます。また欠席および復習用に講義収録を行う科目もあり、忙しい社会人が学びやすい環境です。



### E 紋を深める多彩なイベント、交流の機会も豊富

いま地域では、民間企業と行政、NPOなど、市民組織の連携が求められていますが、異業種や異分野の人々と顔見知りになる機会は意外に少ないのが現状です。本研究科では多様な業種の社会人が学びの場を通して志を同じくし、学生同士の貴重な人的ネットワークが形成されます。こうした絆は、通常の講義でのグループ単位によるケースディスカッションをはじめ、夏期合宿など、多彩な交流の機会によって育まれます。



## 地域リーダーを育成する経営・地域公共の融合的カリキュラム

地域活性化に貢献するリーダーを養成するため、本研究科は一般的なMBAに地域の要素を加え、経営系と地域公共系を融合したカリキュラムを構築しています。学生諸氏は、分析基礎科目、地域基礎科目、基礎科目、応用科目などのカテゴリーの中から、各々の問題意識や志向性に沿って科目を選択し、地域の問題を的確に把握し解決する能力や、組織をマネジメントする能力などを身につけます。



■研究倫理およびライフプランニング論(特)は1単位、プロジェクト演習・研究は各4単位、他の科目は2単位、(特)は年度ごとに設置する特別講義。

■修了要件…基礎科目10単位以上、地域基礎科目4単位以上、分析基礎科目4単位以上、プロジェクト科目8単位。合計40単位以上。

科目群	授業科目	単位	開講	担当教員名
分析基礎科目	統計分析	2	前期	島根 哲哉
	ゲーム理論	2	後期	宍戸 栄徳(非常勤)
	経済分析	2	前期	長町 康平
	定性的研究方法論	2	後期	板谷 和彦
地域基礎科目	四国経済事情(地域活性化と地域政策)	2	前期	中村 正伸・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と企業経営)	2	後期	西中 美和・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と地域資源)	2	集中	佐藤 勝典・非常勤講師
基礎科目	研究倫理	1	集中	島根 哲哉・沼田 秀穂
	経営戦略	2	前期	西中 美和
	アカウンティング	2	前期	中村 正伸
	組織行動論	2	前期	吉澤 康代
	経営管理論	2	前期	板谷 和彦
	マーケティング戦略	2	前期	閔 庚炫(非常勤)
	ファイナンス・マネジメント	2	後期	三好 秀和
	地域公共政策	2	前期	渡邊 誠(特命)
	地域マネジメント論	2	後期	原 真志
	社会起業家論	2	前期	佐藤 勝典
	意思決定分析	2	前期	沼田 秀穂
	マーケティング・リサーチ	2	集中	閔 庚炫(非常勤)
	ビジネス・アカウンティング(財務会計)	2	後期	國村 年(非常勤)
	マネジメント・アカウンティング(管理会計)	2	前期	中村 正伸
応用科目	人的資源管理論	2	後期	吉澤 康代
	都市・環境政策の経済評価	2	後期	島根 哲哉
	国際経営	2	後期	山本 靖(特命)
	地域経済分析	2	後期	長町 康平
	費用便益分析	2	集中	那須 清吾(非常勤)
	経営リスク・マネジメント	2	前期	志田 慎太郎(非常勤)
	事業構想論	2	前期	山本 靖(特命)
	企業倫理	2	前期	岡本 人志(非常勤)
	クリエイティビティと地域活性化	2	前期	原 真志
	環境経営	2	集中	木全 晃(非常勤)
	サービス・マネジメント	2	後期	西中 美和
	クリエイカル・シンキング	2	後期	沼田 秀穂
	中小企業ファイナンスと事業承継	2	前期	三好 秀和
	自治体財政政策	2	後期	渡邊 誠(特命)
特別講義	デザイン・マネジメント	2	後期	大場 晴夫(非常勤)他
	生産マネジメント	2	前期	北 真収(非常勤)
	実践型地域活性化演習	2	集中	渡邊 誠(特命)
	実践型クリエイティブワーク演習	2	集中	原 真志
	地域の中小企業と経済活性化	2	後期	かがわ産業支援財団提供講義
	地域活性化と観光創造	2	後期	四国ツーリズム創造機構提供講義・佐藤勝典
	ライフアントレプレナーシップ	2	前期	原 真志・徳倉 康之(特命)
	技術経営・イノベーション特論	2	前期	板谷 和彦 他
	観光地マネジメント	2	後期	藤田 明久(非常勤)
	ライフプランニング論	1	後期	三好 秀和
プロジェクト科目	プロジェクト演習	4	前期・集中	全専任教員
	プロジェクト研究	4	後期	全専任教員

## 専任教員



教 授 研究科長  
Shinji Hara  
原 真 志

### 略歴

[学歴] 東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学(1995)・修士(理学)  
 [職歴] 香川大学経済学部専任講師(1995-1996)、同助教授(1996-2004)  
 香川大学大学院地域マネジメント研究科助教授(2004-2007)、同准教授(2007-2010)  
 同教授(2011-)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員(1998-2000, 2011-2012)  
 香川大学大学院地域マネジメント研究科研究科長(2015-)  
 [公職等]「四国八十八景選定委員会」選定部会委員(四国地方整備局)、「映像コンテンツ・ビジネスモデル研究会」委員(経済産業省)、広域周遊観光促進四国地域連絡調整会議(四国運輸局)  
 香川県産業成長戦略に関する懇談会委員、三豊市総合計画審議会委員長  
 濑戸内島旅活性化研究会座長など

### 担当授業科目

地域マネジメント論  
 クリエイティビティと  
 地域活性化  
 実践型クリエイティブ  
 ワーク演習  
 ライフアントレナーシップ

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

[地域マネジメント論] 地域のマネジメントには何が求められるか?企業にとって地域の意味は何か?地域の様々な課題を解決するポイントは何か?ネットワーク・知識創造・リーダーシップ・クリエイティビティ・信頼などのテーマを、ケースと理論の両面から考えます。地域活性化に取組む際に共通して必要な考え方を身につけ、本物の実践的思考力を養う場を提供します。[クリエイティビティと地域活性化] 地域の隠れた魅力に光をあて、地域の要素を効果的に組み込んだ深いストーリーの映画脚本作成と、映画と地域資源のコラボによるビジネスプランの作成により、個性あるクリエイティビティを発揮しての地域活性化を目指します。[実践型クリエイティブワーク演習] 地域映画脚本を練り上げる実践的演習を行います。

徹底した現場主義と、定性・定量の両方を用いる複眼的アプローチが持ち味で、クリエイティビティと異なる知識の融合を対象にしています。アメリカのロサンゼルスにあるUCLAで1998年から1年半研究して以来、ハリウッド映画産業に関する現地調査に基づく研究を進め、日本の映画・アニメ産業との比較分析を行っています。さらに香川、四国、瀬戸内の地域活性化に関して、1)瀬戸内の島嶼部を対象に島旅による地域活性化の産学連携研究、2)日常生活から着想を得て、人生を変えるような起業を行うライフアントレナーシップの研究、3)香川漆器など伝統産業の国際化に関する研究に力を入れています。

## 専任教員



教 授  
Kazuhiko Itaya  
板 谷 和 彦

### 略歴

[学歴] 東京大学理学系大学院相関理化学専攻修士課程修了(1986)・理学修士、(2002)博士(工学)  
 東京大学総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程修了(2010)・博士(学術)  
 [職歴] (株)東芝 総合研究所(現研究開発センター)研究主務、経営変革エキスパートなどを経て研究主幹(1986-2012)、カリフォルニア大学サンタバーバラ校客員研究員(1993-1995)、東京工業大学大学院総合理工学研究科非常勤講師(2000-2002)、東芝ビジネス&ライフサービス(株)テクニカルサービス部長(2012-2017)、東京農工大学 工学院府産業技術専攻教授(2013-2017)、香川大学 大学院教学センター副センター長(2021-)、  
 [公職等] 研究・イノベーション学会 会計理事(2020-)、評議員(2012-)、  
 PICMET (Portland International Center for Management and Engineering of Technology)  
 プログラム委員(2007-)

### 担当授業科目

経営管理論  
 定性的研究方法論  
 技術経営・イノベーション特論

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

[経営管理論] 企業や自治体などの経営組織においては、必ず基盤となる組織のフレームと管理のシステムが存在します。本講義ではそれらと深く関わる理論・学説と、どのような役割と機能を有するか理解を深めていきます。さらに、事例も示しながら今日における経営と管理のあり方についても考察をはかっていきます。[定性的研究方法論] 社会的フィールドや様々な行動の背後に隠れた「意味」に着目し、これを再構成・理論化するのに有効な定性的研究方法論について学びます。方法論としてのプロセスを解説した上で、プロジェクト研究や様々な機会で実践できるように演習も進めていきます。[技術経営・イノベーション特論] マネジメントに関わる基本的なフレームと理論に対し、「技術」が関わることによって、何を考慮すべきかに関して考察します。さらに、イノベーションに関する基礎的な理解とともに、イノベーション創出への道筋を先進事例から学んでいきます。

組織におけるナレッジワーカー(知識労働者)の様々な創造活動の理論的解明や、創造性を促進するマネジメントシステムを提案する研究を行っています。技術系企業において工学分野の研究や、技術をサービスセクターの新事業へと結合させる活動など、実務家としても経験を重ねてきました。「地域新時代」をむかえ、企業や地域の様々な経営組織における現場でナレッジワーカーの創造性発揮が強く求められていると考えます。大学と地域企業の双方向にコミュニケーションをはかりながら研究を推進していきます。  
 受賞: PICMET '17 Conference Brad W. Hosler Outstanding Student Paper Award Nominating Professor 2017

### 担当授業科目

アカウンティング  
 マネジメント・アカウンティング  
 四国経済事情  
 (地域活性化と地域政策)

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

アカウンティングでは、会計に期待されている役割を考察します。数年前発覚した内資大手企業や監査法人を巡る会計不祥事を頭の片隅に置く必要はあるものの、そもそも会計の果たす役割について、過去・現在・未来の時間軸で検討したいと思います。マネジメント・アカウンティングでは、その目的である組織のメンバーの「動機付け」を念頭に議論を行います。組織・個々人の責任を明確にして、前向きな気持ちを持たせてやられてみる、そしてその業績を評価する。その役割を担うのがマネジメント・アカウンティングです。組織は生き残りをかけて変化へ対応する必要があります。そのためにマネジメント・アカウンティングが果たす役割を皆さんと考えたいと思います。

プロジェクト組織におけるマネジメント・アカウンティング、即ち管理会計の役割を研究しています。プロジェクト組織は、特定目的のために編成される臨時組織であり、目的を達成すれば解散します。従来管理会計は、部門と呼ばれる比較的安定的な組織を前提に研究がなされてきました。しかし、製品やサービスのライフサイクルが加速度的に短期化している現代においては、変化に対応して、新しい製品やサービスを継続的に市場に送り出す必要があります。そのために、常に組織の編成・解散を繰り返し臨機応変に対応することになります。そのような活動を有限な資源により遂行していくための会計の役割を研究しています。

### 担当授業科目

経営戦略  
 サービス・マネジメント  
 四国経済事情  
 (地域活性化と企業経営)

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

[経営戦略] 組織が価値を創出し将来展望を考える上で重要な、事業定義の考え方、競争優位を築くための戦略、コア・コンピタンス等に関わる、代表的な経営戦略の理論とフレームワークを、実際の事例を交えながらの講義や、討議を通じて体系的に説明します。さらに、それらを包括的に含む経営戦略策定演習を行います。

[サービス・マネジメント] サービスには、無形性という性質があり、サービス受益者もサービスの価値共創のプロセスに共同生産者として参加するという特徴があるため、新しい理論体系ができています。本講義では、価値共創、ウェルビーイング、ホスピタリティ、共感、信頼等、サービスシステムを構築するために必要な代表的な理論と方法論を、事例や演習を併用し体系的に説明します。

経営資源として重要な知識資源の中でも、特に、データ化されていない暗黙的知識をコア・コンピタンスと位置づけ、その知識が表出化・明確化され、組織的知識となってゆくプロセスの概念モデル化、および方法論化の研究を行っています。知識のつながりは価値を生み出すため、対象範囲を地域に拡張し、持続的価値共創によるウェルビーイングを目指すための、メソレベル・コミュニティ形成モデルに関する研究も進めております。

受賞: 第8回知識共創フォーラム 論文 共創賞受賞(2019年3月)



教 授

Hideho Numata

沼田 秀穂

## 略歴

[学歴] 電気通信大学大学院電気通信学研究科博士課程修了、博士(工学)、MBA  
 専門社会調査士、応用情報技術者  
 [職歴] 大日本スクリーン製造勤務、東京大学先端科学技術研究センター協力研究員  
 東京大学国際・産学共同研究センター科学技術振興特任研究員  
 国立情報学研究所(NII)共同研究員  
 エクセリードテクノロジー代表取締役  
 事業創造大学院大学教学担当副学長・研究科長、環太平洋大学 副学長・経営学部長  
 現代経営研究所長を経て、現在  
 [公職等] (独)情報処理推進機構(IPA)社会基盤センター 専門委員

## 担当授業科目

意思決定分析  
 クリティカル・シンキング  
 研究倫理

## 研究テーマ

## 研究実績・実務業績

あらゆる組織の中における活動において、すべてに意思決定が伴います。中長期の戦略立案も日々のオペレーションにおいても意思決定の連続です。正しい意思決定を行うための思考法、などを多面的に捉えて本質を探し出し、決断を行える論理的思考・発想法を習得するのが「クリティカル・シンキング」の授業であり、具体的な例題を通じて意思決定の実体験をシミュレーションしながら多面的な評価分析手法、シミュレーション方法論を習得していくのが「意思決定分析」の授業です。

研究手法の特徴としては、事例観察等の質的研究による「分析的アプローチ」と、解析処理・統計処理等を用いた探索的因子分析、などの数理的手法を用いた量的研究による「構成的アプローチ」の双方向から、多様な社会システムの可視化による推論研究です。また、SNSにおけるコミュニケーションのあり方・有効な意志疎通・意思決定の仕組みの探求から、地域へのSocial Capital(トラスト)育成の取り組み推進を行っています。  
 受賞:情報処理推進機構(IPA)優秀研究員表彰(平成21年3月)、情報通信学会 平成20年度論文賞「優秀賞」(平成21年6月)、日本社会情報学会 第12回学位論文賞(平成21年9月)、日本社会情報学会 秋山穣賞(平成21年9月)



准 教 授

Katsunori Sato

佐藤 勝典

## 略歴

[学歴] 慶應義塾大学商学部卒業(2002)  
 慶應義塾大学大学院商学研究科博士前期課程修了(2005)  
 東北大学大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程修了(2012)・博士(経営学)  
 [職歴] 東北大学大学院経済学研究科博士研究員(2012-2015)  
 香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2015-)

## 担当授業科目

社会起業家論  
 地域活性化と観光創造  
 四国経済事情  
 (地域活性化と地域資源)

## 研究テーマ

## 研究実績・実務業績

[社会起業家論] 現代社会では、貧困、ニートや障害者など社会的弱者に関する様々な社会的課題が起きている。これらの課題をビジネスの手法を用いて収益を上げながら事業性を兼ね備えて解決しようとする社会起業家に注目して理論と実態の両面から講義を行う。  
 [地域活性化と観光創造] 四国ツーリズム創造機構と四国経済団体連合会の提供講義である。四国各地を中心として観光関係で活躍するゲストスピーカーに講演してもらう。その後、講演をもとにディスカッションを行うことで、受講生の理解を深め、地域社会や所属する組織での活用を検討する。

社会的企業が地域コミュニティにどのような影響を与えるのか、社会的弱者をどのように包摂していくのかについて関心を持っている。これまで、中山間地域のコミュニティビジネスや東日本大震災の被災当事者による社会的企業をテーマとして研究を実施してきた。現在は、瀬戸内の地域コミュニティでの社会的企業と障害者のライフタイムの視点に立った就労移行支援などの社会参加をテーマとして研究している。



教 授

Hidekazu Miyoshi

三好 秀和

## 略歴

[学歴] ファイナンス修士、慶應義塾大学経済学部卒業(1996)  
 早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(2006)、京都大学経済学博士(2012)  
 [職歴] 香川大学金融証券研究会顧問、第一生命保険相互会社(1986-2001)  
 日経QUICK情報紙(2001-2007)、立命館大学大学院経営管理研究科教授(2007-2017)  
 一般社団法人高度人材養成機構理事長(2017-2020)  
 [公職等] 日本おもてなし学会理事、日本FP学会理事、生命保険経営学会、試験委員(日本商工会議所・金融事情研究会主催DCプランナー認定制度)、試験委員(日本証券アナリスト協会主催プライベートバンキング試験制度)、投資信託協会ビジネス等環境整備小委員会委員長(2016-2017)  
 大阪市職員の人事管理に関する専門委員(2016-2017)等

## 担当授業科目

ファイナンス・マネジメント  
 中小企業ファイナンスと事業承継  
 ライフプランニング論

## 研究テーマ

## 研究実績・実務業績

ファイナンス・マネジメントの講義対象は企業です。企業経営と金融・資本市場とのどのような関わりをもって経済活動をおこなっているのかを検討します。初学者向けの基本科目であることを踏まえてファイナンスの基本概念が身に着くように講義します。中小企業ファイナンスと事業承継は応用科目です。企業の生成から成長、発展し、株式を公開し上場するまでのファイナンスの3つ(自己資本、借入、ベンチャーキャピタルによる出資)の観点から検討します。受講生は自らシミュレーション上の起業をしながら企業の成長プロセスが体感できます。その成長過程でコーポレートファイナンスの主要な技法を学ぶことができます。さらに、中小企業の課題である事業承継の方法論を学びます。ライフプランニング論は人生をファイナンスの観点から見つめ直す講義です。

これまで資産運用業の研究をおこなってきました。現在はリーマンショック以降、少子高齢化による人口オーナス社会の中で誇り高く調和のとれた共生社会を生み出すために、金融が果たす役割は何かを研究しています。キーワードを示せば、個人の視点ではリタイアメントプラン、リバースモーゲージ、企業の視点では働き方改革、事業承継、金融の視点では地域創生ファンド、地域通貨、そして、財政の視点では、共生社会の実現、民生費、社会保障費、地方への税移譲、シェアリングエコノミーです。学術的な貢献に留まることなく地域で実践的に役立つことが必要であると考えています。



准 教 授

Tetsuya Shimane

島根 哲哉

## 略歴

[学歴] 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了  
 [職歴] 麗澤大学国際経済学部助手(1996-1998)  
 東京工業大学大学院情報理工学研究科助手・助教(1998-2016)  
 学習院大学政治学研究科非常勤講師(2005-2008)  
 上智大学経済学部非常勤講師(2010-2019)  
 東京工業大学工学院助教(2016-2019)  
 香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2019-)

## 担当授業科目

統計分析  
 都市・環境政策の経済評価  
 研究倫理

## 研究テーマ

## 研究実績・実務業績

[統計分析] 個人の経験のみによらない客観的な“事実”を理解することが、様々な場面で求められています。“事実”を見つけ出すためには、集めたデータを統計学的な観点から分析することが有用です。この講義では、サンプルデータを分析する実習を交えて、統計学の基礎を理解し、実践的な分析スキルの獲得を目指します。  
 [都市・環境政策の経済評価] 事実に基づいた判断が、政策決定や経営判断の場で重視されつつあります。そのためには、理論的な知見に基づいて問題をモデル化することと、政策がもたらす結果の変化を明らかにするために定量的にデータで分析を行うことが必要です。この講義ではいくつかの都市・環境政策について経済学モデルを通じて考察し、その成果を定量的に評価する方法を学びます。

計量経済学の方法を用いて、個人や企業などの意思決定の実証的経済分析に取り組んでいます。特に空間的に影響を受けるモデルや離散的な選択を扱うモデルに関心を持っています。  
 分析の対象はあまり限定せず、企業の市場参入や女性の労働参加、環境政策の評価など広く取り組んでいます。

## 専任教員



准教授

Kohei Nagamachi

長町 康平

### 略歴

[学歴] 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(2012)・博士(経済学)  
[職歴] 日本学術振興会特別研究員DC2(2010-2011)  
横浜国立大学経済学部非常勤講師(2011-2013)  
東京大学大学院経済学研究科助教(2012-2013)  
京都大学経済研究所非常勤講師(2014)  
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2014-)。  
[公職] 経済産業研究所・地域経済プログラム・プロジェクトメンバー(2013-2017)

### 担当授業科目

経済分析  
地域経済分析

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

[経済分析] 家計・企業等の経済主体の意思決定問題とそこから派生する市場・非市場における諸現象を分析対象とするミクロ経済学を体系的に学びます。経済学の基礎であるミクロ経済学を学ぶことで経済学の応用分野へ進む基礎力を提供すると同時に、経済情勢や経済政策の意義・必要性を大局的な視点から理解する能力を身につけます。  
[地域経済分析] 地域(都市を含む)の経済活動を分析するための経済学を学びます。具体的には、なぜ都市が存在するのか、都市の人口規模はどのように決まるのか、といった基本的内容やその他地域の経済活動を理解する際に役立つ視点を学びます。また、都市が世界の貿易拠点である点を考慮し、国際貿易についても経済学的視点から学びます。

経済活動の空間分布の決定メカニズムとそれが経済成長・格差、社会厚生にもたらす影響を空間経済学、都市経済学、マクロ経済学等の分析手法を用いて主に理論的・数量的に分析しています。これまで、知識労働者の地理的集中、情報通信技術の発達によるフラグメンテーションと都市の機能的特化、多様な産業・職業・職務が存在する中での都市の階層性、人工知能が都市システムに与える影響を研究してきました。

## 特命教員



特命教授

Yasushi Yamamoto

山本 靖

### 略歴

[学歴] 慶應義塾大学工学部卒業  
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程修了 国際経営学修士  
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了 博士(学術)  
[職歴] 総合商社大倉商事株勤務後、日本と米国でシリアル・アントレプレナーとして起業多数  
ジーダット(JASDAQ 3841)、オリックス・キャピタル、プライムゲート、PALTEK(東証2部7587)  
その他企業の社外役員や顧問就任。千葉工業大学非常勤講師、東海大学非常勤講師  
[公職] 日本システムデザイン学会理事

### 担当授業科目

国際経営  
事業構想論

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

[国際経営] 香川県を含む四国地方の企業の課題の一つは、海外展開とグローバル・ビジネスをいつ、どうやって進めるのかという点にあります。このチャレンジに必要な国際経営における経営理論ならびに海外進出時のプロセスや意思決定について学びます。国際社会で活躍できかつ企業・組織内で活用できる教養とマネジメント能力を身に付けます。  
[事業構想論] 起業家活動、ベンチャー企業経営、ファミリービジネス、産官学連携、事業再生、スピノフ、NPO、起業家精神の背景にある米国哲学等のケース・メソッドによる学習、ゲスト講師の講話から新しい知識獲得、理論書の輪読等を通じて、ビジネスプランあるいは小論文を論述できる能力、学会で研究発表できる能力を身に付けます。

実務家としてエレクトロニクスやソフトウェア産業で民間企業の経営管理に従事してまいりました。また日米でベンチャー企業を設立し、経営責任者としてオペレーションを経験しております。経営管理、システム設計、プロジェクト管理、ビジネス上の意思決定や交渉、企業倫理、中小企業・ベンチャー企業のガバナンスをテーマに研究や執筆活動を行っています。  
受賞:「製品開発工程におけるイタレーションによる負荷とリスク・アセスメントに関する研究」日本設計工学会論文誌 平成17年度論文賞受賞



准教授

Yasuyo Yoshizawa

吉澤 康代

### 略歴

[学歴] 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了  
[学位] 政策・メディア 博士(慶應義塾大学)(2009)  
[職歴] 株式会社ヒューマンネットワーク研究所(1996-2005)、株式会社コーポレイティユニバーシティプラットフォーム(2006-2010)、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師(常勤)(2010-2013)、香川大学大学院地域マネジメント研究科専任講師(2013-2017)、香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2017-)。  
[公職等] 香川県行財政改革推進会議委員(2019-)、人材育成学会役員編集委員会委員(2020-)、丸亀市行政改革推進委員会委員長(2021-)、厚生労働省「地域雇用活性化推進事業」地域雇用活性化支援アドバイザー(2021-2022)、高松市自治推進審議会委員(2021-2022)

### 担当授業科目

組織行動論  
人的資源管理論

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

グローバル、ダイバーシティが進展する中、多様な「人」といかに向き合い、組織力を高めていくのか。次世代のマネジメントに求められる視点です。そのような「人」に焦点を当てた科目が「組織行動論」「人的資源管理論」です。いずれの科目も理論だけでなく、ケースをもとにディスカッションやグループワークを通じて学んでいきます。  
[組織行動論]個人、集団、組織が陥りやすい課題を整理し、個人の意識・態度・行動(パーソナリティ、コミュニケーション、コミットメント、リーダーシップなど)を活性化し、その集合体となる組織の成果(組織風土、組織変革など)をいかに高めていくのかについて考えます。  
[人的資源管理論]人材マネジメントの古典的な機能は「序列」「評価」「報酬」「配置・異動・昇格」「教育・開発」です。これらの機能は経営のカスケーディング、すなわち組織の「ミッション」「ビジョン」「方針」「戦略」の流れを汲んで運用される必要があり、それを「戦略的的人的資源管理」と言います。人材マネジメントの機能を理解し、戦略的的人的資源管理について考えます。

「個人と企業組織の関係性(組織コミットメント、組織風土、モチベーションなど)」「働き方」「キャリア」を研究領域とし、これまで「テレワーク」「ワーク・ライフ・バランス」「ダイバーシティ」などを扱ってきました。最近は「ライフキャリアにおけるワークモチベーションのダイナミズム研究」「ケースメソッド研究会」「キャリアワークショップ」に力を入れています。モチベーションの主要理論は若年成人を対象に精緻化され、少子高齢化が進む中、その説明力に限界がきています。生涯現役社会に向けて中高年成人のモチベーション理論の構築を目指しています。



特命教授

Makoto Watanabe

渡邊 誠

### 略歴

[学歴] 福島大学大学院経済学研究科(経営学専攻)修了  
[職歴] 農林水産省(1991-2016)この間、同省大臣官房文書課法令審査官、大臣官房政策課企画専門職、内閣官房行政改革推進本部事務局、内閣府公益認定等委員会事務局主査、宮城県登米市参事兼ブランド戦略室長 ほか  
東北大農学研究科特任講師(2017)  
宮城県登米市副市長(2018-2021)  
[公職] (公財)宮城県林業公社理事(2018-2021)

### 担当授業科目

地域公共政策  
自治体財政政策  
実践型地域活性化演習

### 研究テーマ

### 研究実績・実務業績

少子高齢化により人口が減少していく中で、地域においては独自の活性化政策を構築することが必要であり、地域の現状を客観的に認識し、諸課題に向き合い、行政・民間の垣根を越えて地域活性化に取り組む自治体や地域の経営者(パブリック・プロフェッショナル)の存在が欠かせません。「地域公共政策」では、地域ならではのビジネスを創出し、持続的発展に向け地域を経営する視点で必要となるマネジメントを学びます。「自治体財政政策」では、社会保障費や行政需要の増加による厳しい財政状況の中で、政策の実行と財政運営の健全化を両立する持続可能な財政運営の在り方を学びます。「実践型地域活性化演習」では、各自が地域活性化プロジェクトを立案し、その実践活動を通じて地域振興手法を学びます。

これまで農林水産省では農業政策、国際協力、東日本大震災からの復興支援、内閣官房・内閣府では公務員制度などの行財政改革や公益法人制度改革、自治体では農業版のビジネス・スクールの実施など地域起業家の育成支援、経営幹部として厳しい財政状況の下での組織運営や行財政運営などを担当してきました。地方自治体のほか、様々な主体が関わり、地域に「興す人」を増やし、地域ならではのビジネスの創出・エコシステムの構築を図る地域経営・マネジメントの在り方を研究します。



特命准教授

Yasuyuki Tokukura

徳倉 康之

## 略歴

[学歴] 法政大学法学部法律学科(2002)、香川大学大学院地域マネジメント研究科(2018)  
 [職歴] 株式会社白元(2002-2011)、NPO法人ファーリング・ジャパン事務局長(2011-2014)  
 \*現在理事として在任、株式会社ファミーリエ代表取締役(2015-)、合同会社OSアカデミア共同代表(2016-)、香川大学大学院地域マネジメント研究科特命准教授(2018-)  
 [公職] 内閣府子ども・子育て会議委員、内閣府男女共同参画連携推進会議委員、厚生労働省「男性の育児休業取得促進事業」検討委員、国立研究開発法人科学技術振興機構ダイバーシティ推進アドバイザリー委員、香川県男女共同参画審議会委員、たかまつ創生総合戦略懇談会委員、高松市創造都市推進懇談会(U-40)会長、高松市男女共同参画推進懇談会委員

## 担当授業科目

ライフアントレプレナーシップ

本講義では地域特性、課題解決、経営者個人の思考、経営の継承等により「新しいスタイルの経営者」の存在が散見されるようになりました。そこでこの新しいスタイルの経営者を「ライフアントレプレナー」ととらえ、地域における起業・創業・複業・継承の在り方を学び、起業家マインドやそれを支える地域リーダーの養成を目指します。このライフアントレプレナーとは「個人のライフ(生活)から社会にイノベーションを起こし、自分と周囲の人生を豊かにそして満足できるものに変える起業家。成熟社会においての起業家タイプの一つ」と定義し授業を進めます。授業では実際の経営者をお招きし、事業内容の説明はもちろんの事、院生との対話の時間を取り率直な議論を交わす事も想定しています。

## 研究テーマ

研究実績・実務業績

女性医師の就労継続要因・個人、組織の働き方改革・組織のマネジメント、男女共同参画、男性の育児参画等を主な領域とし、経営する会社事業としては企業・自治体・大学・高校・医療機関等での講演、セミナーに加え自治体委託事業、個別企業に対する働き方関連コンサルティング、また高松市内にテレワーク・コワーキング施設「高松市プラットフォーム・ラボ」を開設運営中。



## 客員教授一覧

志田 慎太郎  
天雲 俊夫

元 東京海上日動リスクコンサルティング(株) 顧問  
香川県信用保証協会 会長

國村 年  
國村公認会計士事務所 所長

非常勤講師は変更になる場合があります。

## 非常勤講師

## 担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域政策)

山下 昭史  
浜田 恵造  
野水 学  
小牧 義弘  
大西 秀人  
柳町 勝彦  
石垣 英司  
吉元 博文

三豊市長  
香川県知事  
四国総合通信局長  
日本銀行高松支店長  
高松市長  
四国財務局長  
四国森林管理局長  
四国運輸局長

原 伸幸  
中国四国農政局 地方参事官 香川県担当

小野寺 慎司  
幸田 安隆  
丹羽 克彦  
松瀬 貴裕  
中村 正伸

四国経済産業局長

香川県文化芸術局 濑戸内国際芸術祭推進課 課長

四国地方整備局長

香川労働局長

地域マネジメント研究科 教授

(2021年度の講師です。)

## 担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域資源)

菅 宏司  
大森 研一  
益田 祐美子  
古川 康造  
浅野 智英  
笠原 良二  
大南 信也  
北川 智博

かすがいジャパン株式会社 代表取締役社長  
合同会社ウサギマル 代表  
株式会社平成プロジェクト 代表取締役  
高松丸亀町商店街振興組合 理事長  
総社市まちかど郷土館 館長  
株式会社直島文化村／ベネッセハウス 代表取締役社長  
特定非営利活動法人グリーンバレー 理事  
瀬戸内うどんカンパニー株式会社 代表取締役社長

中村 公一  
畦地 履正  
高木 智仁  
多田 善昭  
山口 仁八郎  
三好 勝則  
佐藤 勝典

産業人知的財産協議会 代表

株式会社四万十ドラマ 代表取締役

有限会社ロワール商事 代表取締役

多田善昭建築設計事務所 主宰

株式会社丸ノ内ホテル 副総支配人兼総料理長

香川大学 客員教授

地域マネジメント研究科 准教授

(2021年度の講師です。)

## 担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と企業経営)

小幡 義樹  
植田 貴世子  
高濱 和則  
港 義弘  
宮本 喜弘  
真鍋 康正  
門脇 恵一  
半井 真司

高松空港株式会社 代表取締役社長  
株式会社クラッサー 代表取締役  
大倉工業株式会社 代表取締役会長  
香川県農業協同組合中央会 代表理事長  
四国電力株式会社 取締役常務執行役員  
高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長  
三菱商事株式会社 四国支店 支店長  
四国旅客鉄道株式会社 代表取締役会長

内永 ゆか子  
多田野 宏一  
中條 博之  
天雲 俊夫  
尾形 優子  
綾田 裕次郎  
西中 美和

NPO法人J-Win理事長

株式会社タダノ 代表取締役会長

香川証券株式会社 代表取締役社長

香川県信用保証協会 会長

メロディ・インターナショナル株式会社 代表取締役CEO

株式会社百十四銀行 代表取締役頭取

地域マネジメント研究科 教授

(2021年度の講師です。)

## 担当授業科目 ゲーム理論

宍戸 栄徳 香川大学 名誉教授

## 担当授業科目 マーケティング戦略

閔 庚炫 佐賀大学 教授

## 担当授業科目 マーケティング・リサーチ

閔 庚炫 佐賀大学 教授

## 担当授業科目 ビジネス・アカウンティング(財務会計)

國村 年 國村公認会計士事務所 所長

## 担当授業科目 費用便益分析

那須 清吾 高知工科大学経済・マネジメント学群 教授

## 担当授業科目 経営リスク・マネジメント

志田 慎太郎 香川大学 客員教授

## 担当授業科目 企業倫理

岡本 人志 大阪市立大学 名誉教授

## 担当授業科目 環境経営

木全 晃 明治大学研究・知財戦略機構 客員研究員

(2021年度現在)

## 担当授業科目 デザイン・マネジメント

大場 晴夫 香川大学創造工学部 教授

山口 博志 大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部  
ソーシャルコミュニケーション本部 サービスデザイン・ラボ 部長

川口 真輝 株式会社博報堂 ブランド・イノベーションデザイン局 部長

イノベーションディレクター

## 担当授業科目 生産マネジメント

北 真収 摂南大学経営学部 教授

## ■公益財団法人かがわ産業支援財団 提供講義

## 担当授業科目 地域の中小企業と経済活性化 【公開講座】

安松 延朗 公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長

水本 規代 株式会社sorani 代表取締役

船田 裕亮 株式会社蔵水産 代表取締役

大野 英作 宝食品株式会社 代表取締役社長

早川 茂 一般社団法人希少糖普及協会 代表理事

大久保 明 勇心酒造株式会社 顧問

木村 豪 株式会社木村海産 専務取締役

江本 昌弘 江本手袋株式会社 取締役

松本 真治 株式会社四国総合研究所 代表取締役社長

森山 竜志 株式会社興栄企画 代表取締役

眞鍋 有紀子 富士建設株式会社 代表取締役

川西 功志 株式会社カワニシカバンプロダクト 代表取締役

木内 千恵美 有限会社ディンカム 代表取締役

中田 雅也 合同会社ナカタ 代表社員

長峰 考志 株式会社長峰製作所 代表取締役

## ■四国ツーリズム創造機構 提供講義

## 担当授業科目 地域活性化と観光創造

村上 健太郎 NPO法人砂浜美術館 理事長

高岡 公三 一般社団法人キタ・マネジメント 代表理事

青木 義英 せとうち観光専門職短期大学 学長

出尾 宏二 一般社団法人そらの郷 事務局次長観光地域づくりマネージャー

井原 豊喜 阿佐海岸鉄道株式会社 代表取締役専務

佐藤 勝典 地域マネジメント研究科 准教授



(2021年度の講師です。)

## 担当授業科目 ライファントトレプレナーシップ

馬場 加奈子 株式会社サングラッド 代表取締役

永原 三千博 有限会社米屋ながはら 代表取締役

松岡 敬三 株式会社イーグルハウス興業 代表取締役

大崎 龍史 濑戸内サニー株式会社 代表取締役

原田 佳南子 濑戸内ワークス株式会社 代表取締役

徳倉 康之 地域マネジメント研究科 特命准教授

(2021年度の講師です。)

## 担当授業科目 技術経営・イノベーション特論

田村 啓敏 香川大学大学院農学研究科 教授

林 敏浩 香川大学大学院創発科学研究科 教授

梶谷 義雄 香川大学大学院創発科学研究科 教授

田辺 孝二 東京工業大学 名誉教授

板谷 和彦 地域マネジメント研究科 教授

## 担当授業科目 観光地マネジメント

## 担当授業科目 観光地マネジメント

藤田 明久 株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション 取締役



# Interview

地域マネジメント研究生17期生  
香川短期大学幼児教育学科卒業、学校法人 くにう幼稚園

福井 麻紀  
Maki Fukui

**Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？**

A. 挑戦力です。地域マネジメント研究科では、様々なバックグラウンドを持つ人たちが集まっているので、皆さんの豊富な知識や意見に刺激を受け、今まで気づけなかった視点に目を向けることで狭くなっていた視野が広がり、私自身の考え方にも変わりました。また、価値観と知識が身についたことで様々な物事を前向き思考で捉えることができるようになりました。

**Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？**

A. 教育の現場で働く私にとって、地マネの授業はどれも新鮮で貴重な時間でしたが、中でも原研究科長の「実践型クリエイティブワーク演習」の授業はフィールドワークの現場調査など、検討を繰り返す中で歴史から地域活性化を図る脚本をメンバーと作成することができました。更には、オーディオドラマという形ではありますが一つの作品を完成させ、その過程で、人と地域、人と人の繋がりを感じる素晴らしい経験となりました。

**Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。**

A. 仕事と学業の両立は正直、想像以上に大変でした。しかし、2年間という時間をとても短く感じたのは、その分得たものが大きかったからだとも言えます。進化が求められる社会だからこそ、地マネでの経験は自分を振り返るきっかけとなり、価値観を変えてくれる時間になると感じます。新たな未来を築くための質的転換に向けて、是非、挑戦してもらいたいです。



# Interview

地域マネジメント研究生17期生  
宇部看護専門学校卒業 日本赤十字看護大学認定看護師教育課程修了、独立行政法人労働者健康安全機構 香川労災病院

渡壁 美香  
Mika Watakabe

**Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？**

A. 新しい観点から物事を見る能够で、入学後は今までの人生の中で、初めて医療者以外の多くの異業種の仲間と共に学ぶという貴重な経験をすることができました。入学当初は新型コロナウィルス感染症の影響で遠隔授業でしたが、キャンパスでの授業はすごく刺激的で新たな思考を学ぶことができました。私にとってかけがえのない貴重な経験でした。

**Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？**

A. 定性的研究方法論の授業です。過去にインタビュー調査研究を実施した経験がありましたが、授業後は今までの自分の方法がいかに自己流であったのか目の当たりにし、すごく衝撃的な印象を受けました。研究は定性的研究方法で実施したいと思い、テキストを見ながら丁寧に、基本に忠実に実施していました。とても大変な作業でしたが、その分達成感につながりました。

**Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。**

A. アドバイスは、時間管理を意識することです。日々時間管理を繰り返すことで、効率的に仕事を行なうことや計画通りに課題に取り組むなど自分で、自己コントロール感が得られるようになります。正直、仕事と学業の両立は大変でしたが、時間管理術は確実に身に付き、これからの自分の人生においてとても刺激的で貴重な体験ができます。

地域マネジメント研究生17期生  
北里大学理学部、カノンキュア株式会社  
渡辺 敏彦  
Toshihiko Watanabe

# Interview

**Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？**

A. MBA風に言うと人脈ですが、やはり新たな人との繋がりだと思います。同期の皆さんももちろんのこと、今でもお付き合いの続く1年先輩、そしてプロジェクト研究を通じて得た地域の皆さんとの繋がりです。行政、アカデミック、企業、NPO、コミュニティに所属する地域の皆さんとのコミュニケーションは、狭い社会で過ごしてきた私にとっては新鮮な経験でした。



**Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？**

A. 個性的な講師陣の講義はすべて思い出深いのですが、特に強く印象に残っているのは1年のときのシンポジウムです。コロナ下のミーティングもままならない状況で、初めてのネット開催を成し遂げた実行メンバーの努力と頑張りには心を動かされました。もうひとつはプロジェクト研究です。毎週ゼミで板谷教授の板谷節を聞くと励まされ、また頑張ることができました。

**Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。**

A. MBAなので、実際、単位取得もプロジェクト研究もとても大変です。でも地マネを目指そうとする方はそんな事は承知の上ですよね。私は地マネの講義が始まり、全く分野の異なる学問を学び始めたとき、新鮮な喜びを感じると共に自分が60歳を過ぎてさらに成長していることに気づき、楽しいと感じました。皆さんも、是非、地マネで講義や研究を楽しんでください。



# Voice

地域マネジメント研究科18期生  
同志社女子大学現代社会学部社会システム学科卒業

森 美晴  
Miharu Mori

**Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。**

A. 私は学部では観光学を学んでいたのですが、香川県を対象地域に設定した卒業研究を進める中で、自分に足りない部分が見えてきて経営学の新たな視点を学びたいという思いが芽生えていました。そんな折、コロナの影響によって就職試験が延期になるなど日々状況が変化していく中で、その思いを優先し、地元で学んだ上で社会に貢献したいと考え、入学を決意しました。

**Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。**

A. 学部時代には機会が少なかった、地元企業や官公庁の方からお話を聞く授業や、授業内でグループディスカッションを行う時間が印象的であり、そのような授業が多いのが地域マネジメント研究科の特徴だと思います。新たな知見を得ることができるのはもちろんのこと、様々な年代や職業から構成される仲間たちと意見を交わすことで学びが深まっているように感じます。

**Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。**

A. 私は新卒で入学し、アルバイトと就職活動をしながら学生生活を送っていますが、授業の課題や発表準備といった目の前に追われているとあっという間に時間は過ぎていきます。どういう目的を持って入学したのか、修了した後自分がどうなっていったか、自分の中で軸をしっかりと持つことができていれば、より充実した学生生活になると思います。

## 仕事と勉学の両立



# Voice

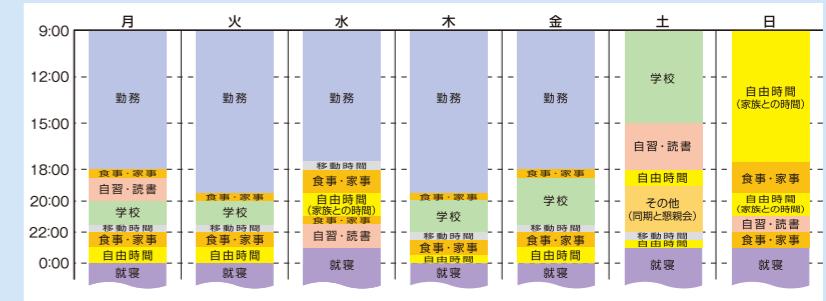
地域マネジメント研究科18期生  
早稲田大学商学部、香川県政策部デジタル戦略室デジタル戦略課

棟保 智弘  
Tomohiro Muneyasu

**充実した時間・空間・仲間**

人生を変えるきっかけは、「時間配分・環境・付き合う人」を変えることだといいますが、ここではそのすべてが当てはまります。限られた時間のやりくり、アカデミックな環境、素晴らしい学友や先生との出会い。日々新しい発見があり、大学院で学んだことが仕事で応用できることも。応援してくれる家族と職場の同僚のおかげで、忙しくも充実した毎日を送っています。

■ある1週間のスケジュール



## 仕事と勉学の両立

地域マネジメント研究科18期生  
大阪国際大学短期大学部栄養学科卒、株式会社味のちぬや

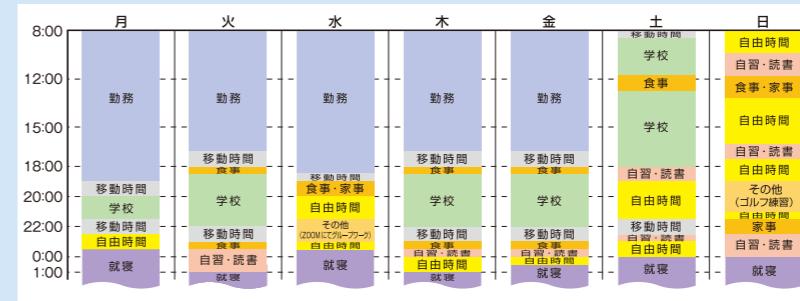
松崎 聖矢  
Seiya Matsuzaki

**二兎を追う者は三兎を得る!**

私は欲張りでせっかちな性格です。仕事で今よりもっと成果を上げたい! そのためには経営学を体系的に学び、成長したい! できれば最短距離で! …それ、地マネならできます! 時間が無い! と思っていたのですが、スキマ時間や休日をうまく使えばなんとかなります。しかも様々なバックグランドをもつ高い志の同期にも出会える!

これ、コスパ最強じゃないですか? (笑)

■ある1週間のスケジュール



# Voice

地域マネジメント研究科18期生  
大阪大学人間科学部、四国電力株式会社 燃料部

白石 沙織  
Saori Shiraishi

**Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。**

A. 私は愛媛から関西に進学した後、香川にJターンしました。地域活性化には学生の頃から関心があり、いくつか地元四国に貢献できるような仕事がしたいと考えてきましたが、「思いはあるが動き方が分からない」という状態で、悩んでいました。そんな折、地マネの存在を知り、地域×MBAの考え方方に魅かれて、入学を決意しました。

**Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。**

A. 「マーケティング戦略」では、深夜まで仲間と議論し、具体的な戦略立案を行いました。業種による知識・経験の違いと、それに伴う関心・発想の違いが新鮮でした。また、「クリティカルシンキング」は、人間が無意識に陥る思考の癖を矯正する授業なのですが、研究から人間関係にまで幅広く活用できる内容で、大変興味深かったです。

**Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。**

A. 香川に社外の知人がいなかった私にとって、地マネでの多くの友人との出会いが、貴重な財産になりました。私たちのシンポジウムは、総合司会にベテラン教員、裏方にテレビ番組のディレクターというリッチな顔ぶれでした。MBAに通う方々は、各々が志を持った各分野のプロフェッショナルです。新たに出会った仲間と語り、何かを作る経験は、とても魅力的なものだと感じています。

## 主な勤務先(過去5年間)

## ◎公的機関

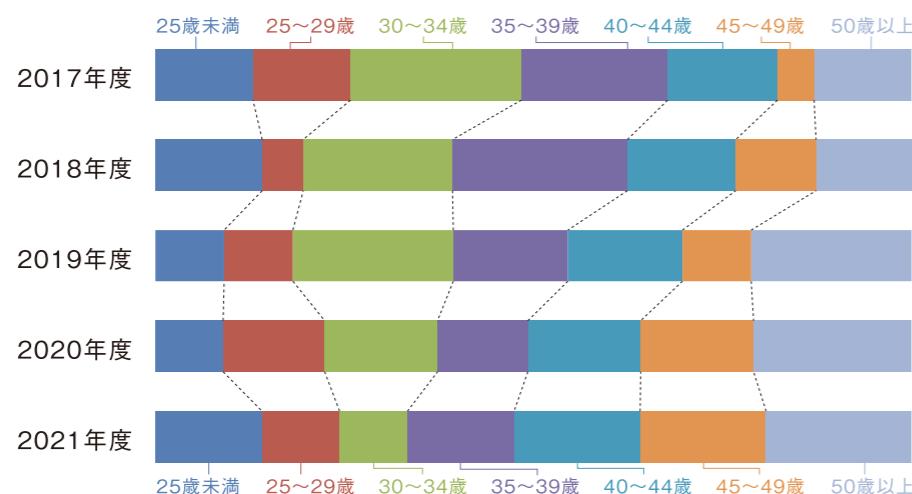
香川県庁・愛媛県庁・高松市役所・丸亀市役所・坂出市役所・さぬき市役所・東かがわ市役所・三豊市役所・国土交通省・香川労働局・日本政策金融公庫・高知大学医学部附属病院・りつりん病院・高知県立大学・阪大微生物研究所会・香川大学医学部附属病院 他

## ◎民間企業

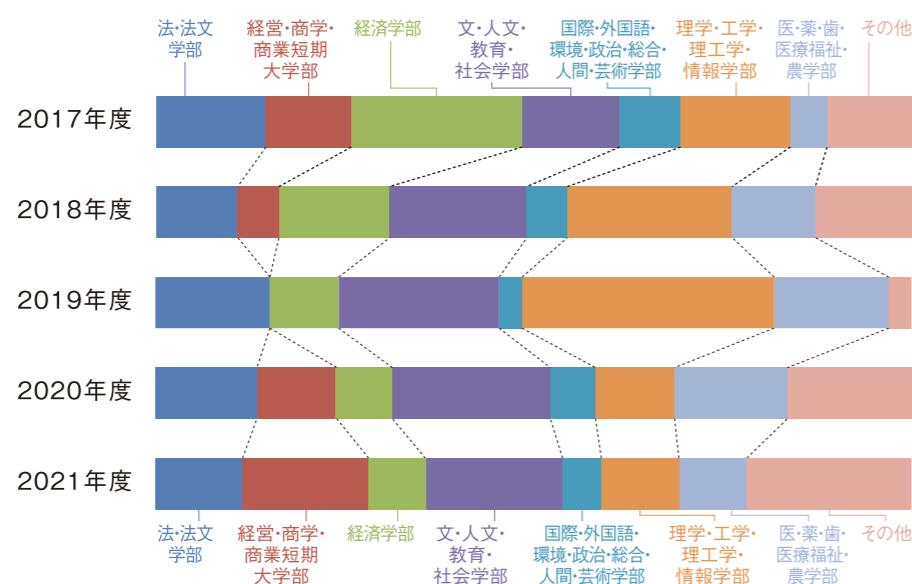
四国旅客鉄道・百十四銀行・四国電力・STNet・阿波銀行・タダノ・西日本放送・瀬戸内海放送・ジョンソン・エンド・ジョンソン・四電エンジニアリング・大倉工業・南海プライウッド・四国化成・セーラー広告・損害保険ジャパン日本興亜・穴吹トラベル・JA岡山東・マキタ・伊予銀行・東京海上自動火災保険・四国水族館開発・味のちぬや 他

## 構成比

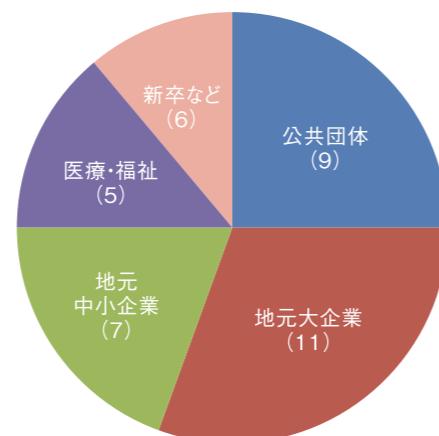
## 年齢別構成



## 出身学部別構成



## 入学者所属構成(2021年度)



## ■修学助成の一例

## 教育訓練給付制度

一定の条件を満たす雇用保険の被保険者、または被保険者であった方が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額がハローワークから支給される制度です。本研究科は、厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練講座ですので、本人が支給要件を満たしていれば、最大で入学金と2年間の授業料の70%の支給を受けることができます。詳細は、ハローワークが発行している「専門実践教育訓練の給付金のご案内」のリーフレットを参照してください。

## ■入試の考え方

入学試験においては、アドミッションポリシーと整合的な志望動機や将来の計画を有しているか、カリキュラムを受講するにあたって必要な論理性・表現力を有しているかについて、小論文および書類・面接により審査します。なお、社会人選抜試験によって受験する者については、小論文を免除する代わりに、社会的経験を踏まえたより多角的な書類・面接審査を実施します。

## ■入学者選抜(一般選抜および社会人選抜)を、夏期、秋期、冬期の3期に分けて行います。

	検査日時	出願期間
夏 期	2022年 7月9日(土)	2022年 6月8日(水)～6月24日(金)
秋 期	2022年 10月8日(土)	2022年 9月7日(水)～9月22日(木)
冬 期	2023年 2月4日(土)	2023年 1月4日(水)～1月23日(月)

## ■選抜方法の概要是次図に示したとおりです。

